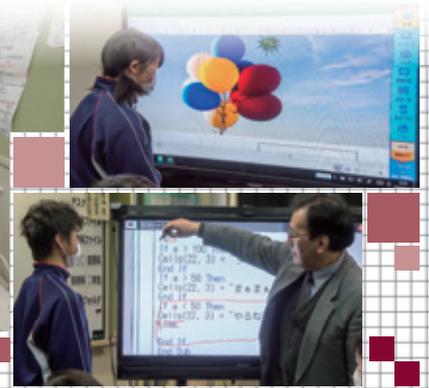


導入事例
てれたっちタブレットと「てれたっち」を使ったプログラミング授業。
意見交換を通じ、修正・実行を繰り返すことで、「伝えきる力」を育みます。

中仙道の馬籠宿ほど近くに立地する中津川市立神坂中学校は、ほぼすべてのクラスの生徒数が10名以下という小規模校。少人数ならではの丁寧な指導を実践する同校は、中津川市のICT支援により、充実した教育環境を実現されています。同校で教鞭をとる安江辰司先生(技術化担当)と、中津川市教育委員会・学校教育課の山内雅浩指導主事にお話を伺いました。※先生のご紹介、学校での設置状況などは取材当時のものです。



※ディスプレイは別売りです。

導入商品

外付け型タッチ化ユニット
「てれたっち」

DA-TOUCH / WB

自分の意見を相手に伝えきる力を。そこで活躍するのが「てれたっち」です

どのような環境で「てれたっち」を活用されているのか教えてください。

安江先生: 当校では生徒1人に1台ずつ行き渡る数のタブレットが導入されており、これらを使ってエクセルのマクロを使用したプログラミングを指導しています。「てれたっち」はパソコン室の大型ディスプレイに設置し、プログラムを表示するために使います。ネットワークの制約上、画面転送のような連携は行っていませんが、生徒が作成したプログラムを共有サーバー上に保存して閲覧し合っています。

授業では、エクセル上に打ち込んだ数字の和によって、異なるテキストメッセージを返すプログラムを作成されていましたね。

安江先生: ある処理条件を私から生徒に与え、各自がこれまでに学んだコードを組み合わせてプログラミングしていきます。うまく動かない生徒がいたら、そのファイルを即座に「てれたっち」の画面上に表示して、皆でどこが問題なのか意見を話し合ったり、修正案をプログラムに反映して検証したり。生徒が書いたプログラムそのものを大きな画面に表示して、拡大したり、線を引いたりできますから、わかりやすいですね。普段プログラミングを苦手としている生徒から、「そこか!」という声も漏れたのが印象的でした。ポイントがどこなのかのかわかるようになったんです。手ごたえを感じますね。

非常に能動的でわかりやすい授業という印象でした。

安江先生: 発表する時に「てれたっち」があると、どこに注目すべきかわつと画面上を指し示すことができますから、生徒も伝えやすいようです。ほかの生徒から意見が出たら、その場で直して確認できるのでスムーズです。「てれたっち」を使うことで、より伝えやすい環境が整い、皆が自分の考えを堂々と伝えるようになっていきます。



機能を駆使して積極的に発表



ポイントが一目でわかります

活発な発表・意見交換を後押しする「てれたっち」は、プログラミングの授業に最適

過去に別の電子黒板が使われた経験があるそうですが、「てれたっち」と従来の製品の違いはどこにあると感じられましたか。

山内指導主事: 従来の電子黒板は移動が大変で、使い方も難しく、使う側にもそれなりの修練が求められるものでした。高額のため、皆に行き渡るほど導入できなかったのも残念でした。また、立ち上げに時間がかかるという印象を持っています。限りある時間の中でよりよい授業をするために、現場の教員は寸暇を惜しんで教えていますから、小さな時間のロスでも見過ごせません。

安江先生: その点、「てれたっち」は手軽です。使用感はパソコンと同じで、コンテンツにもほぼ制約がありません。エクセルなどの普段使っているソフトウェアがそのまま利用できますし、特殊なソフトウェアを覚える必要もありません。活発な発表・意見交換を後押ししてくれる「てれたっち」は、プログラミングの授業でまさに私が必要と感じていたものを満たしてくれるツールでした。

まずは先駆者となる先生方がノウハウを蓄積し、徐々に周りの先生方へ

教育現場におけるICT機器の活用について、ヴィジョンなどがございましたらお聞かせください。

山内指導主事: ICT機器の必要性は広く認識されていますが、コストの制約も少なからずあります。私としては、少しでも値段が安くて性能のよいものを皆に行き渡るようにと考えていますが、こうした観点でも「てれたっち」は評価できますね。安江先生のような先駆者となる先生方にまずは技術を高めてもらい、そこから周りに広げていくのが現実的と考えています。現場の先生方には引き続き期待しています。



注目してほしい箇所に自分で下線

取材にご協力いただいた先生



中津川市教育委員会 学校教育課
山内 雅浩 指導主事



中津川市立神坂中学校
安江 辰司 先生



CLIENT DATA

導入学校 / 中津川市立神坂中学校
所在地 / 岐阜県中津川市
設立 / 2005年